

# 3. 倫理的視点から見る 医療被ばく情報の管理について

奥田 保男 量子科学技術研究開発機構

本稿では、医療被ばく情報を管理する本質的な意義について考える前に、まず生命倫理について確認する<sup>1)~3)</sup>。生命倫理は医療の現場においてきわめて重要であり、医療従事者が患者と向き合う際の基本的な指針と言える。1979年に、Tom L. BeauchampとJames F. Childressが『Principles of Biomedical Ethics』で提唱した生命倫理には4つの原則が記されている<sup>4)</sup>。医療従事者は、社会に対して果たすべき責任を認識し、この原則を順守することが求められる。この原則は、医療被ばく情報の管理ばかりでなく、医療現場のあらゆる場面で基盤となる考え方である。医療従事者が、技術的な面だけでなく、倫理的な観点からも判断し行動することで、患者に信頼される医療の提供につながる。

## 生命倫理の4つの原則

この原則は、「自律性の尊重 (Respect for Autonomy)」「善行 (Beneficence)」「無危害 (Non-maleficence)」「正義 (Justice)」で構成されている。それぞれの原則について以下に概説する<sup>2)</sup>。

- ① 自律性の尊重：患者が自らの治療方針などの選択に関して意思決定する権利を尊重することを指す。医療従事者には、十分な情報提供と対話を通じて患者が納得できる選択を支援することが求められる。
- ② 善行：医療従事者が患者の最善の利益を追究し、健康や幸福の促進に努めることを指す。治療やケアを提供する際に、患者の状況や価値観を踏

まえ、最も望ましい結果をもたらすよう努力する姿勢が重要である。

- ③ 無危害：患者に対して不必要な危害や侵襲を加えないことを指す。すなわち、医療行為が患者にとって負担やリスクとなる場合は、その危険性を最小限に抑える工夫と配慮が必須である。
- ④ 正義：公正な医療の提供を指す。すべての患者が平等に適切な医療を受けられるよう配慮し、資源の分配や治療などにおいて差別がないよう努めることが求められる。

## 被ばく管理の本質的な意義

次に、被ばく管理の本質的な意義について考察する。被ばく管理は、患者の健康を守るだけでなく、医療現場における安全性や信頼性の向上にも貢献している。医療行為において被ばく量を適切に管理することは、「無危害」の原則に則り患者の身体的負担を軽減するだけでなく、「善行」の観点から必要かつ最善の検査を選択する姿勢にも直結する。さらに、「正義」の原則に基づき、不要な検査や再撮影を防ぐことで医療資源の効率的な活用が可能となる。すべての患者が平等に、適切な医療を受けられるよう配慮することも重要な要素である。

しかし、診断精度や正確性の向上を追究するあまり、例えば、安易な再撮影が繰り返されるケースが少なからずあるのではないかと考える。このような状況は、患者の被ばく量増加というリスクを

伴い、「自律性の尊重」や「無危害」の原則に反する可能性がある。したがって、医療従事者には、「倫理的な視点」と「技術の習得および知識の向上」の両面から、より慎重な判断と管理が求められる。患者の安全と尊厳を守るためには、倫理原則を念頭に置き、被ばく量の最小化と合理的な医療資源の活用に努めることが不可欠である。

さらに、電子化が進むにつれて、患者情報のデータ管理や活用方法に関する新たな倫理的課題も浮上している。データの保存・共有が簡易になる一方で、個人情報漏洩リスクや、人工知能(AI)などの技術による自動化判断の透明性、責任の所在があいまいになる可能性がある。今後は、被ばく量の適切な管理だけでなく、患者のプライバシー保護、データの活用における倫理的な妥当性を慎重に議論していく姿勢が重要である。技術革新の中で、医療従事者一人ひとりが患者の安全と尊厳を守るために何ができるかを問い続けることが、信頼される医療を築く基盤となるのであろう。

### ●参考文献

- 1) 清水哲郎：医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学。医学書院、東京、2022。
- 2) 丸山英二：今知っておくべき研究における倫理生命倫理4原則と医学研究。日本義肢装具学会誌、27(1)：58-64、2011。
- 3) 高嶋愛里、重野亜久里、井出みはる：第2部 倫理とコミュニケーション 3. 専門職としての意識と責任。重野亜久里、前田華奈、横山志都子、他編：医療通訳。pp95-124、日本医療教育財団、東京、2018。  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001381303.pdf>
- 4) Beauchamp, T.L., Childress, J.F. : Principles of Biomedical Ethics. Oxford University Press, Oxford, 1979。